

# 5章

## 公務員志望者・進路指導のポイント

本特集の数多くのインタビューや解説の中に、公務員の世界に吹き始めた「新しい風」を感じていただけただろうか。ここではその風の方向を踏まえた上で、公務員を目指す高校生のための進路指導はどうあるべきか、そのヒントを示した。本人の人生にとって、また社会の未来にとって望ましい指導を考えるきっかけになればと思う。

取材文／荒尾貴正（本誌編集デスク）

### 高学歴化の波が到来

「学歴」を受験条件にしている公務員試験は少ないが、試験の目安として「大学卒業程度」や「高校卒業程度」と表しているものは多い。しかし現実合格している人は、その目安を上回る学歴を保持しているケースが多いようだ。

たとえば国家公務員Ⅲ種や地方公務員初級は「高校卒業程度」だが、実際の合格者は高校新卒者よりも専門学校卒者のほうがずっと多いという。

「われわれとしては、地方出身のまっさらな高校生にも期待しているところは大きいのですが、最近はなかなか1次試験にも合格してもらえないという状況があります」

（中央官庁人事担当）

一方、「大学卒業程度」としている試験には、大学院卒者がこのところ増加している。国家公務員Ⅰ種は、これまでは「大学卒業程度」であったが、大学院卒者の受験も想定

し平成18年度より「大学卒業段階の知識・技術及びその応用能力を必要とする程度」と変更されている。実際に法科大学院や公共政策大学院などの修了者が年々増加しているという。また、東京都も大学院卒者を対象とした試験区分を新設するなど、地方公務員も同様の傾向を見せ始めている。

もともと国家公務員試験は事実として学歴による制限はなく、専門学校卒者や大学中退者でⅠ種に合格する人が、少ないながらも毎年出ている。しかし民間同様、公務員の世界にも高学歴化の波が押し寄せている現実を理解すべきだろう。

### 「面接重視」の傾向強まる

筆記試験に合格すれば「受かったも同然」というのが従来の公務員試験のイメージだったがかもしれないが、今は違う。「面接重視」が昨今の公務員試験の傾向だ。1次試験で合格者を多めに確保し、2次試験の面接（人物試験）で絞り込むというスタイルが国家、地方とも主流になってきているのである。

面接にも工夫がなされており、個別面接のみならず集団面接、集団討論、プレゼンテーションなども導入されるようになった。従来のような、公務員にふさわしくない人物を、落とすための面接ではなく、さまざまな角度から人物を見て、公務員にふさわ

しい人物を採用しようという積極的なものに変わっている。中央官庁と有名企業とで学生を取り合うケースがこのところ非常に増えているという。

### インターンシップで自分を磨く

インターンシップの機会が、ぜひ利用したい。本当になりたいのかどうか自問自答する機会になるし、実際の職場を体感すれば考えるべきことも増える。「こんな問題があるのか」「自分ならこうしたい」と具体的なテーマが浮かぶだろう。パンフレットやインターネットなどから得られる知識とは違って、面接で自分を強くアピールする材料にもなり得る。

ただ自治体インターンシップは増えてい  
るが、高校生に門戸を開いているところは  
比較的少ない。しかし専門学校生や大学生  
を受け入れるところは非常に多い。また、ユ  
ニークなものとして、議員インターンシップ  
というものもある。前出の奥田氏が体験  
し、公務員になることを決断したと語って  
いるが(p.10)、議員や行政職員たちのリア  
ルな仕事ぶりは、国政や地方行政への興味  
を一層かき立ててくれるだろう。さらには

「日本政策学生会議」など、大学生たちが  
政策を考え、提言していくような組織やサ  
ークルもある。大学生や専門学校生になっ  
たらこれらに参加してみたい。

## 公務員志願者が多い 大学専門学校へ

一般に公務員試験は難関だ。優秀な人で  
も、少なくとも半年〜1年程度は集中的に  
受験対策に励む必要がある。そういう試験  
だからこそ、受験仲間の存在も重要だ。4  
章で体験談を語った4人は、全員が合格の  
秘訣に「友人」の存在をあげた。お互いに学

び合い、励まし合う友がいたからこそ難関  
を突破できたという。

その観点でいえば、大学や専門学校に進  
む際には、公務員志願者がどれくらいいる  
かも学校選びのポイントになる。公務員合  
格者が何人出ているか、試験対策講座が設  
けられているか、学校として公務員受験を  
どの程度サポート・奨励しているかがチェッ  
クポイントになるだろう。

## 有利な学部は 法学部？経済学部？

公務員になるのに有利な学部としては、一  
般に法学部や経済学部を推す声が多い。公  
務員の採用人数は行政職や事務職が最も  
多く、それらの採用試験では法律や経済、  
行政といった科目は必須である。そのため、  
それらを授業で学べる法学部や経済学部  
が試験には有利という考え方だ。

また、公務員の仕事は、その多くが法律  
と関係するため、公務員の実務を想定した  
場合にも法律の知識はあるに越したことは  
ない、という意見もある。

## 「絶対に公務員」ではなく 自立したキャリアパスを

しかし、試験に有利といった理由で学校  
や学部を選ぶことは、果たして正解なのだ  
ろうか？ 前出の兵庫県立大学大学院の中  
野先生は次のように語る。

「自分の好きな学部に入ったらい」とい  
うのが私のアドバイスです。公務員には実  
様々な仕事がありますから、この学部じゃ  
なきゃだめ、という決まりはない。好きなこ  
とを学び、「これが自分の専門だ」といえる  
まで高めたうえで、それでも公務員になり  
たければ公務員に、民間に行きたければ民  
間に行けばいいのです」

中野先生がそう語る背景には、公務員の  
厳しい現実がある。激しいプレッシャー、不  
要なバッシング、増え続ける退職者……。実  
際のところ中野先生は、志の高い学生を除  
き、公務員になることを勧めていない。「安  
定」「身分保障」「収入」を安易に求める若  
者が公務員になったとしても、それは本人  
のためにも国民のためにもならないからだ。  
「最初から『公務員になるために』と考え

るのではなく、『どうすれば自立して生きて  
いけるか』という長い目でキャリアパスを描  
いたほうが絶対に幸せだと思えますね。今  
や民間も役所も求める人材像は似通って  
いますし、どちらも中途採用が増えている。  
そして、公務員の世界はこれからますます  
厳しさが増すこともあり得ます。何が起  
るか分からないと考えるおいたほうがいいと  
思いますよ」

### 進路指導のポイント

- 「高校卒業程度」の試験の合格者には、専門学校卒者が多い
- 「大学卒業程度」の試験の合格者には、大学院卒者が増えている
- 筆記合格＝公務員合格ではない。面接を侮るべからず
- 面接でアピールするためにも、自治体インターンシップを
- 「公務員合格者数」も進学先選びのチェックポイント
- 「何が何でも公務員!」ではなく、広く、長いキャリアプランを